

2025年1月14日（火）

老球の細道848号

2024年度会津バスケットボール協会トップアスリート講習会第6回を終えて

会津バスケットボール協会 室井 冨 仁

5年ぶりに再開した2024年度トップアスリート教室が昨年12月28日（日）第6回をもって終了した。今回再開するにあたっては地区協会技術委員長の星博之先生（若松商業高校）と渡部大介氏（会津クラブ総監督、U-12技術委員）、そして会場校になった北会津中、坂下中、学鳳中の先生方には大変お世話になった。改めて感謝したい。

参加者は主に小学5年生から中学3年生までを対象にした。第1回110名、第2回120名、第3回60名、第4回60名、第5回15名、第6回40名の参加状況で、色々な行事の錯綜する中で全6回皆勤だった選手が数名いた。田島、坂下、美里、猪苗代等全て市外から参加した子どもたちだった。

今年度の講習会は選手のみならず、コーチの養成と研修も目標にしていたので例年になく多くの若手コーチが参加してくれた。第5回の際は選手よりコーチの方が多かったような気がする。小学、中学校時に自らも受講者と参加し、高校では地区外に進学して全国大会出場を経験した若手コーチ達の示範は選手にとって大きな刺激になった。そして何と言っても「精神の若手コーチ」70代のレジェンド、松井遵一郎先生、鈴木新氏、二瓶誠二氏などが元気溢れる姿でコートに立ってくれたことは、私や若手コーチ達の大きな励みになった。

最終回のテーマは「チームオフenseファンダメンタル〈II〉パス&バスケットカット」。JBAのジュニア世代のテーマが「個の育成、個を重視」することを掲げているので、最近のミニや中学のゲームを見ると、ボールを持つとすぐにドリブルで攻撃したり、チームの攻撃がタレント選手の1:1しかなく、他の4人はどこに動いていいかわからないといった様相が見受けられる。先日のU-15ジュニアカップ男子決勝戦「琉球U-15対RIZINGS徳島」の試合はひどかった。両チーム共にドリブルからの3Pを多用したスタイルで大味な内容であった。第2、第3の富永選手を育てようとしているのだろうか。

バスケットボールは「5:5のチームスポーツ」であることを忘れてはいけない。個を活かすためにチームプレイがある。個が活かさない時にもチームプレイが必要になる。チームプレイ（ルール）のないチームは、1:1のオフenseを邪魔し、1:1のオフenseに合わせて動くことができない。

ゲーム中オフenseが機能しなくなる時の代表的な特徴は「人が止まる、ボールが止まる、思考が止まる」時である。このような状況から脱却するためのポイントはシンプルである。「パスしたらゴールヘカット」「パスがもらえなかったらバックカット」「空いたスポットを別な人が埋める（フィル）」。そうすると人もボールも頭も動き出し、山本リンダ「♪どうにも止まらない」となる。こういう状況がディフェンスを揺さぶり1:1をやりやすくする。

最後に、この講習会で、会津地区指導者がカテゴリーを越えて一致団結し、現在の低迷を脱却するきっかけになれば幸いである。選手もコーチもチームプレイで育つ。